



道徳が教科になります！～「特別の教科 道徳」について～

平成30年度より、道徳の時間が、「特別の教科 道徳」になります。これまでも、「道徳の時間」での授業や学校の教育活動全体を通して、子どもたちの道徳性や「豊かな心」を育てていく取組が行われてきました。では、なぜ、今道徳が教科化されることになったのか。そこには、次のような背景があります。

- ① 深刻ないじめ問題に対して、本質的な解決を目指すこと
- ② 価値観の多様化、情報通信技術の発展、子どもの生活及び子どもを取りまく地域や家庭の変化への対応
- ③ 諸外国に比べて低いと言われる、子どもたちの自己肯定感や社会参画への意識の醸成

また、これまでの道徳の授業が、知識や理解としての道徳的価値に偏りがちであったため、自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを考えて行動したり、正しいと思ったことを行動に移したりするなどの「実践力」の弱さが、大きな課題として指摘されていました。そこで、様々な学びや経験の中から得た知識や理解をもとに、正しく判断し、行動しようとする意欲や態度、道徳的実践力を着実に育てていくことのできるような「道徳」を目指そうということになりました。そのために、表面的な話し合いではなく、一人一人が深く考え、みんなで議論し合うことを通して、そうした「心」を育てていくということが「教科道徳」の目標です。

本校でも、子どもたちの「温かい心」の育成に、これまで以上に努めてまいります。



～教科化によって変わること～

1. 検定教科書の導入

来年度より新しい教科書の「新しい道徳」を用いて、学習を進めてまいります。特に本校では、「礼儀・友情・信頼」の学習を重点とし、友達と自分の考えを話し合う学習を通して、子どもたちの道徳的実践力を育てていきたいと考えております。

2. 一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価の充実

教科となったことで、道徳も評価を行います。数値による評価ではなく、子どもたちが、道徳の授業の中で、資料をもとに自分の生活を振り返ったり、友達の話聞いてさらに考えを深めたりしているといった、学習の成長の様子を記述式で行ってまいります。

